

創立者ウィリアムズ物語 ～道を伝えて己を伝えず～



ウィリアムズは1829年7月18日、アメリカのヴァージニア州リッチモンドに4人兄弟の4番目の子として生を与えられました。父ジョンは弁護士でしたが、ウィリアムズが3歳の時に病死。しかし、母メアリーは決して希望を失うことなく、家族を支えました。メアリーは子どもたちに、熱心に神への信仰を教えました。幼いウィリアムズにも詩篇を暗唱させ、また、毎週欠かさずモニュメンタル教会の日曜学校に出席させました。ウィリアムズはこの母メアリーの信仰に導かれ、たくましい青年へと成長していきました。そしていつしか、ウィリアムズは将来、牧師となって神様と人々に仕えるようにと、心から願うようになりました。

神様は、その祈りを叶えてくださいました。ウィリアムズはウィリアムエンドメリー大学、ヴァージニア神学校を卒業し、宣教師となったのです。そして26歳の時には中国の上海に派遣され、続いて日本に派遣されました。

こうして、ウィリアムズは牧師としての生涯を日本宣教のために捧げることになったのです。

ウィリアムズが来日したのは1859年(安政6)のことでした。当時は、まだキリスト教の布教が許されていませんでした。しかし、いつかキリスト教の宣教が許されることを信じ、長崎の地で一生懸命に日本語の習得、また祈祷書の翻訳などに取り組んでいました。そして1873年(明治6)、その祈りはついにきかれました。明治政府がキリスト教の布教を認めることになったのです。



長崎のウィリアムズの宣教師館跡（オランダ坂）

ウィリアムズは、早速、江戸に居を移し、1874年(明治7)、立教学校創立、そして女子の教育機関として1877年(明治10)、私たちのこの立教女学校を創立しました。また1887年(明治20)には、それまでの英・米聖公会の働きをひとつにして「日本聖公会」を成立させるという大きな働きを成し遂げました。



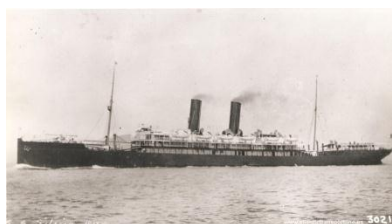
日本聖公会成立総会（1887年）

前列 左から3番目がウィリアムズ(大阪聖三一神学校)

ウィリアムズは、その生涯で、教会、学校、孤児院などの福祉施設等の創立など、数えきれないほど多くの働きをしましたが、最も重要なことは、その生き方です。「道を伝えて己を伝えず」とは、後年、師を知る人々がその信仰と生き方を表すことばとして、今日まで伝えられているものです。ウィリアムズと出会うすべての人々、たとえクリスチャンでなくても、そのキリストの香りとでもいうべきその威厳に満ちた、しかしあくまで主の前に謙遜な祈り、立ち居振る舞い、修道僧のような清貧な暮らしぶり、慈愛に満ちた人々への接し方に深く感銘を受けたのです。

ウィリアムズは人々に事あるごとに、念を押して語っていたこと…それは決して師の業績を讃えてはならぬ、ということです。師は老いて帰国される前に手紙、写真などを、自らの手でほとんど破棄されたようですが、それは、どのような時でも賛美されるのはただ神様のみであるべきと伝えたかったからです。

1908年(明治41)、老ウィリアムズは誰にも知られぬように、長くその歩みを共にしていた友、ガーディナーに付き添われて、横浜港から故国に旅立ちました。その後、二度と日本の地を踏むことはありませんでした。



師はサイベリア号で帰国された。

そして1910年(明治43)、故郷リッチモンド、甥のハリソン氏の自宅で天に召されました。病床にあって最後まで日本語で日本のためにお祈りを捧げていたと伝えられています。



リッチモンドのウィリアムズの墓

-帰国前の「老ウィリアムズの最後の言葉」(基督教週報 1908)-

「もはや私は老朽し、主のご用に役立たない身体になってしまった。今後、ただいたずらに日本の友の手を患わすのはしのびない。私が一日早く帰国すれば、それだけ早く新たな宣教師が私の代わりに派遣されるであろう。私は米国にあっても、変わらずに日本のために祈りを捧げよう」

ウィリアムズ主教・略年表

1829年7月18日 ヴァージニア州リッチモンドで誕生(兄二人、姉二人)

弁護士之父ジョンはウィリアムズ3歳の時に病死。信仰深い母により教育を受ける。

1850年(嘉永3)21歳。ウィリアム・アンド・メリー大学入学。

1852年(嘉永5)23歳。ヴァージニア神学校入学。

1855年(安政2)26歳。米国聖公会より宣教師として上海へ派遣される。

1859年(安政6)30歳。米国聖公会よりリギンズと共に日本へ派遣される。長崎に到着。崇福寺広徳院に住み伝道準備。

1860年(万延)31歳。外国人のための英語礼拝開始。前島密、大隈重信らと出会う。

1866年(慶応2)37歳。一時帰国。支那・江戸伝道主教となる。

1867年(慶応3)38歳。コロンビア大学より神学博士号を授与される。

1869年(明治2)40歳。再来日。大阪川口に移る。

1872年(明治5)43歳。大阪(川口居留地)に英語塾開講。

1873年(明治6)44歳。キリシタン禁止高札撤去に尽力する。江戸移住。

- 1874年(明治7)45歳。立教学校設立。
- 1875年(明治8)46歳。日本専任主教になる。
- 1877年(明治10)48歳。立教女学校設立。
- 1887年(明治20)58歳。日本聖公会成立に導く。
- 1889年(明治22)60歳。江戸主教退任。
- 1895年(明治28)66歳。京都に移り住みひとりの牧師として伝道。
- 1903年(明治36)74歳。一時帰米。静養する。
- 1904年(明治37)75歳。再来日。
- 1906年(明治39)77歳。京都聖ヨハネ教会創立資金を出す。ガーディナーに設計依頼。
(現在は明治村に移築展示されている)
- 1908年(明治41)79歳。横浜より密かに帰米。甥のハリソン氏の自宅へ。
- 1910年(明治43)81歳。2月2日、故郷リッチモンドで永眠。

参考

- 「立教の創始者 C.M.ウィリアムズの生涯」(立教ブックレット 2007年)
- 「立教大学の歴史」(立教大学立教学院史資料センター 2007年)
- 「立教女学院百年小史」(立教女学院 昭和52年)
- 「草創期の人たちの物語」(立教女学院資料室委員会 2007年)

.....

立教女学院はこのウィリアムズの信仰を建学の精神として、今も大切に継承しています。